

教えて！ 市立病院

〈第 86 回〉

脳卒中は早めの受診を！

■問合せ／市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450



〈今月のドクター〉

脳神経外科
川瀬 誠 医師

脳卒中は、以前は日本人の亡くなる原因のトップであり、現在はがん、心臓病に抜かれたものの、寝たきりになる原因の一番に挙げられています。脳卒中には、主に脳の血管が破れて出血する「脳出血」と、脳の血管が詰まって血が通わなくなる「脳梗塞」の2つがあります。

脳卒中の症状は、脳のどこが害されるかで様々ですが、典型的なものは片側の手足の麻痺です。足だけの麻痺は脳卒中以外の原因でも起こりますが、片側の顔面と手の麻痺があれば、ほぼ脳卒中です。

脳出血は、ある程度の出血であれば、手術で症状が軽快することや、早期のリハビリにつなげることが可能です。しかし、出血が大きくなって脳の障害が進むと、命に関わる事態になり、手術の効果が得られないことがあります。最近では内視鏡を用いた手術が主流で、開頭するより傷が小さく体への負担の少ない手術ができるようになりました。

脳梗塞は、発症後 4 時間半以内であれば、血管に詰まった血栓を溶かす薬が使える、6 時間以内であれば、カテーテルで血栓を除去することが可能な場合があります。以前は、脳梗塞はリハビリだけが治療の方法でしたが、最近になり、治療法の選択肢が増えていきます。

いずれの場合も、時間との勝負です。急に呂律が回らなくなったり、片側の顔と手が動きにくくなったりした場合は、すぐに救急車で医療機関を受診しましょう。救急車であれば、その日の血栓溶解療法が可能な施設に搬送してくれます。「Time Is Brain (時は脳なり)」が合言葉です。